

第2回信夫山の資源を活かしたまちづくり検討委員会 議事録

1 日 時 令和元年12月20日(金) 13:30～15:30

2 場 所 福島市役所4階庁議室

3 出席者

委員

西内 みなみ 委員長、薄 真幸 委員、佐藤 祀男 委員、加藤 勝夫 委員
渡邊 仁 委員、谷 美和 委員、若林 初美 委員、本田 政博 委員
遠藤 直紀 委員、奈良輪 和子 委員、志賀 裕悦 委員、春山 哲郎 委員、
村川 友彦 委員、

オブザーバー

小浪 尊宏 (代理: 下田一朗)

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

- ①第1回委員会の振り返り(信夫山の課題の整理)
- ②信夫山の資源の保全について
- ③信夫山の資源を活用した交流創出について
- ④今後のスケジュール

(3) その他

(4) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6 委員の主な発言

①第1回委員会の振り返り(信夫山の課題の整理)

(委員)

前回、第四小学校の活動について、東日本大震災以降に信夫山での総合学習が無くなってしまったと話したが、実際に第三小学校のような資料が出てきた。信夫山を愛してとにかく今のままでよいという意見が多かったと思った。

(委員長)

私もテレビで第三小学校のニュースを見ていたが、第1回の委員会が終わった後だったので、福島市が働きかけているのかなと思った。あまりにもタイムリーで、子供達の素直で率直な意見が反映されている資料でありがたく思った。

今行っている議論は成果が出るのが20年後、30年後と考えると、正直、この中で何人が生きているのだろうと思うが、子供たちの率直な意見が書かれているので、子供達の期待に応えたいと思える資料を頂戴することができた。

(委員)

前回の委員会で、子供達や市民の方は信夫山についてあまり知らないのではないかと思います、第四中学校の生徒会役員10名を対象に、現在の信夫山のイメージについてアンケートを行った。

○信夫山のイメージについて聞かせてほしい。

(プラスイメージ)

- ・自分たちの住んでいる福島市のシンボル、いつも見守ってくれている。
- ・歴史があり様々な神社や祭り、公園があり、「神の山」と言われている。
- ・夜景がきれい、桜、紅葉がきれい。

(マイナスイメージ)

- ・訪れる人が少ない。
- ・カラスが多い。
- ・イベントが少ない。
- ・少し荒れている。
- ・山頂の方がよくわからない。

○次の場所やイベントについて知っているか。

※<行ったことがある> <聞いたことがある> <知らない>の3択

- ・羽黒神社や護国神社、第一展望台、暁参り、桜祭りなどは半分ぐらいが行ったことがある。
- ・第三展望デッキ、クリーンアップ作戦、岩谷観音などは0~1名しか行ったことがなく、ほとんどの子供たちは知らない。

今回思ったのだが、委員会で配布されたような資料を、市内の小中学校に小学6年生や中学1年生限定でも構わないが、夏休み前に自由研究の資料として配ることができないか。そうすることで、子供達も山を見て調べてみようという気持ちが湧いてくるのではないか。親もネットなどで自由研究の題材を調べがちだが、資料を配れば、子供達が自発的に調べたくなるのではないかと思った。

○これからの信夫山にどうなってほしいか具体的な思いがあれば聞かせてほしい。

- 自然を壊さず美しい信夫山であってほしいから、クリーンアップ作戦に参加したい。
- 参加型イベントを増やすなどして、もっといろいろな人に信夫山に行きやすいようにしてほしい。
- 宣伝として、パンフレットやポスターを小中学校や、公共施設に配ってほしい。

自然を壊さず美しい信夫山であってほしいけれど、イベントなどがあり賑やかな信夫山であってほしいと、両方の意見が出た。

(委員長)

次の議題である信夫山の保全・活用についての意見に入っている発言だったと思う。

②信夫山の資源の保全について

③信夫山の資源を活用した交流創出について

(委員)

子供達が小さいときから信夫山に親しんでもらいたい。是非、市内の小学校の授業に信夫山について学習する時間を作っていただき、放射線の問題はあるが安全だとわかれば、遠足は6年間のうち必ず1度は信夫山にして実際に行ってもらったり、校外学習などで信夫山に来てもらったりする仕組みを教育委員会等と一緒に作り上げていく必要があると思う。

(委員長)

委員会の提言として、市内の義務教育課程の授業に、是非、信夫山に触れる機会を作ってもらうように要望を出していきたい。

(委員)

信夫山を多くの世代に知ってもらうには、中央のマスコミに取り上げてもらった方が関心を引きやすい。例えば、ブラタモリという番組で、信夫山を中心とした福島盆地について、珍しい山の成り立ちや地質や植生などいろいろな分野を取り上げてもらうように市から誘致してもらいたい。烏ヶ崎は旅行番組などで構わないのでマスコミに取りあげてもらうことができれば、関心を持つ人が増え、福島市民も関心を持つのではないかと思う。

(委員長)

昨日、NHK東北の番組審議委員会があり、各地方局が作る番組の中で、ブラタモリは断

トツで人気があり最優秀賞をとった。1時間番組で特集を募集していたので、信夫山を押せばよかった。中央のマスコミが地域のよさを取り上げてくれたら、いろいろな人が関心を持ってくれると思う。

(委員)

保全を考えたときに資源が沢山あるのはわかるが、その貴重性をきちんと把握しないとそれをどうやって保全するかがきちんと出てこないと思う。そのためには専門的な調査を、自然、歴史、地質、景観、文化景観を含めて継続することが必要。そうする中で、何が貴重か、地域や項目を挙げて、きちんと説明できるようにすることが必要。まずそれが最初の課題ではないかと思う。

信夫山をどのように考えるかということの中で、私は信夫山全体をミュージアム、つまり博物館として、「丸ごとミュージアム」という考えを提唱していきたいと思う。ミュージアムとして考えると、様々な活用方法が出てくると思う。ミュージアムとしての材料は自然、歴史、地質、岩石など十分すぎるほど沢山あるので、それに基づいた保全方法や利用方法を考えていけば、先ほど意見のあった学校の授業としても組み込めるのではないか。

信夫山は物足りない、何もないという意見もあるが、信夫山は丸ごとミュージアムだと考え、どのようなものがあるかをきちんとわかるようにしておけば、満足できるようになると思う。

(委員)

今ある自然について、積極的に守る部分と、活用する部分があると思う。例えば、自然公園や自然環境保全地域を参考にすると、おのずとベースができてくると思う。

活用に関しては神社などが沢山あるので、それをベースにした活用をする。保全に関しては前回話があったが、希少な動植物があると聞いたので、開発の入ってくる前に、行政として2つの要素を考えて、ある程度網にかけておかないと、話が具体的になってからの段階では対応できないので事前に考えていただきたい。

(委員長)

現状での資料収集や記録など、適切な保全管理をしながらどのように保護活動をやっていくかという課題があると感じる。

委員の意見にあった「丸ごとミュージアム」は、ワクワクするネーミングだと思う。福島市内に博物館は何処にあるのと聞かれたら、あの山だよと自信を持って私たちが語れるほどの様相にできたらよい。その時はきちんと調査や資料収集をきちんとしておかないと、観光の部分と、歴史的な本当の意味での価値を混乱させることになってしまうので、しっかり専門的なところで見極めていかないといけない。

残念ながら先日お亡くなりになった委員が前回の委員会でおっしゃっていたように、駅

前に来たお客様が信夫山を見て登ってみたいと思ってもらえる山なのに、残念ながら私たち市民にご案内できる力がないのを痛感している。

(委員)

駅前に沢山のタクシーがあるので、例えばタクシー会社をお願いしてパンフレットを置いてもらい、タクシーで烏ヶ崎まで往復案内する値段を出しておき、相談を受けたお客様を案内するのはどうか。来る人は1人よりも少人数で来るので、タクシーに相乗りしても1人当たりによればある程度コストを軽減できるよう、そういった働きかけをしてもよいのではないか。

(委員)

信夫山を知る材料は沢山あり、パンフレット類だけでも何種類もある。そのようなものを広める方法を考えられたらいいと思う。自分は同級会があると観光案内所でパンフレットをもらってきて県外から帰省してくる人に配布している。

(委員長)

広報媒体は沢山ある。観光案内所には沢山の言語に訳されたパンフレットが置いてある。自分もそのようなパンフレットを利用してお客様に対応することがある。

また、短大にインスタ部があり、観光案内所内に、春と秋にインスタ映えするようなコーナーを作っている。春は花見山だったが、現在は古関裕而さんの譜面のバックをつくって観光客にご案内している。今度は信夫山をモチーフにやってくれと頼もうと思っている。

(委員)

委員がおっしゃっていたように、どうやって行ったらいいのかわからない人がいるが、例えば周辺にQRコードでルートを表示することなら簡単にできそうな気がする。

自分でも信夫山に行くが、人になかなかうまく説明ができないので、QRコードで画像と一緒に説明できたら若い人がもっと入りやすいと思う。

第三小学校の資料にある伝説などをもっと売り込んで、もっと身近に感じてもらい、若い人も含めて、行ってみると現地で更に理解が深まるような、全体的な情報発信の仕掛けをしたらどうかと思う。

また行ってみてサインが弱いと感じる。きちんとデザインされたサインにしたい。全体的な仕掛けと言ったが、サインひとつとってもできると思う。

(委員長)

最近私も、信夫山に「わらじい」というキャラクターがあるのを知った。

花見山には桜の散るようなデザインのロゴマークがあり、それを見ると花見山に関係の

あるパンフレット、バス、タクシーだとわかる。

信夫山にも、そのようなロゴマークがあるとわかりやすく観光客の方にもご案内しやすいと思う。

(委員)

看板やサインは、できれば立派なものが2つ欲しい。1箇所は駅で電車を下りてきた人たちに向けた信夫山の紹介や行く経路を載せたもの、もう1箇所は信夫山の入り口付近に散策路等を載せたもの。最低でも2箇所作ってもらおうとよい。

ポスターとパンフレットは違うかもしれないが、ポスターはあちこちに貼ってあり、全然見る気もしない。信夫山のパンフレットはいろいろあると聞いたが、今後もし作る時は今あるパンフレットを作った団体が皆集まって、共通したものを作ってほしい。いろいろなものがあっても結局見ないと思う。

(委員)

第一展望台をお勧めしたい。登ると福島市が全部わかる。第一展望台をもっと活用できる方法を考えていけたらよい。

(委員)

信夫山にビジターセンターのようなものはあるか。

(委員)

ガイドセンターがある。案内人が常駐していて、資料も沢山揃っている。景色がよい。

(委員)

子供を山に行かせるのに心配な部分もあるので、常時人がいて説明してくださったり安全を確保してくださったりする施設があればいいと思った。

(委員長)

信夫山を熟知している人にとっては、わからない人には何がわからないのかわからない。市民や観光客、インバウンドの方は圧倒的にわからない人の方が多いので、信夫山の文化的な価値や歴史的な本当の魅力をどう伝えていくのかということはこの場で協議している。ここを議論しないと信夫山が人々のものにならないと理解していただきたい。

(委員)

今集まっているメンバーにも温度差がありすぎる。この委員会は今後も何度も開催されるが、報告・連絡・相談だけをやっていても、まとまりがなくなると思う。信夫山をどう

するかというスタートラインに立ってやっていくか、それとも切り口を変えてやっていくかしないとエンドレスになる懸念がある。

ガイドセンターは、民間で運営している。日本全国からお客様が来ており、どこの県から何人の人が来ているかのデータを取っている。これからもっとガイドセンターを幅広く皆さんに知ってもらうようにさらに PR していきたいと聞いている。

つまり、民が先行しているのか、官が追いついていくのか、それとも両者合体でやるのかきちんと住み分けしていかないと、いい結果が出ないと考えている。

(委員長)

民と官の住み分けのポイントがあれば、この委員会で共有して合意形成できれば、委員会発で提案していきたい。現状で頑張っている民の在り方と、官（市）全体でどのように活用していけばよいかをご提案いただきたい。

(委員)

民の方が先行していると言ったが、ここで具体的に誰がどんな風にとは差し控えたいが、民のプロジェクトは 5 回ほど集まってやってきた。そこで非常に問題が起きており、規制緩和をしてもらわないと大きなハードルがあり前に進めないというのが現状である。保全、風致、保安林の解除、道路などの問題がある。

民のメンバーでいくら騒いでも国の問題で、地方に掛け合ってやらざるを得ないと言われている。民のプロジェクトは、これから練り直ししながら具体的にどうするかを、もう 1 度原点に戻りながらやらざるを得ない可能性がある。我々としてもこれからどのような御山地区にするかを考えないといけない。単に史跡名勝を把握するだけでは、里山が活かせないと思う。

(委員)

私もガイドセンターがあるのは知らなかった。あったらよいと考えていた。

じょーもびあや小鳥の森のように、わかりやすい場所にガイドセンターがあり、案内人の方がしっかり居て、資料だけではわからないことを案内人の方が教えてくれるのなら、ガイドセンターをもっと大々的に発信した方がよいと思う。

(委員)

月 1 度、市民に配られている市政だよりも信夫山に関する情報を定期的に載せていけな

(委員)

JA でも広報誌を出しているのだから、広報誌内で信夫山の特集を出せないかと思った。

(委員)

小鳥の森では、委託を受けて民間団体が管理をしている。信夫山のように昔から大切にされてきた自然の残っている場所なので、まず施設など必要なものは官がつくり、それを民が管理するという方法もよいのではと思う。ガイドセンターが一所懸命やっている内容は市としてやるべきことと考えてよいのではないか。実際に活動するのは現在のガイドセンターで働く方にお願ひすれば、両者の顔が立つのではないかと思う。

下から子供だけで上がるのは非常に危険だと思う。親が付き添わないで第一展望台、第二展望台まで歩いて上がるのは大変である。車で行くとしても、今の駐車場スペースは、市民が行く程度で限界だと考えている。そうでないと、歩行者が危険な思いをしながら歩かざるを得ない。可能であれば、ふもとの方に駐車場を作り、そこにガイドセンターのような役割を担ってほしい。場所も古閑裕而記念館近くの旧福島赤十字病院の駐車場あたりがよかったのではないか。岩谷観音、第一展望台、第二展望台まで、電気自動車を使った乗り合いタクシーなどで、駅から人を信夫山まで運んでもらわないと、安全性の面でなかなか散策してもらおう状況にはなっていないと思う。あるいは、歩道を整備するなど。

車が大量に通るようになると、住民の方は迷惑なのではないか。福島市外の方が車で来ると尚更、不慣れなところに入ってくるから厳しいと思う。

ガイドセンターは今より下の御山角屋の隣辺りにあればわかりやすかったと思う。ガイドセンターは、非常に見晴らしがよく、よいところにあるが、ナビか何かを使わないと少し難しいと思う。もう少し地理的なことを考慮し、車ではなく車を置ける場所から主な場所に行ける方策をとれると面白いと思う。ほかの山の例では、ケーブルカーなどがある。

(委員長)

危険な場所を周知するなど、きちんと管理しながら、安全安心に信夫山を利活用できるようにしていけたらいいと思う意見だったと思う。

(委員)

車も大事だが、歩くことでいろいろな自然、歴史、地学がわかる。第三小学校の子供たちは先生と歩いて新しい気づきがあった。だから、学校での総合学習は本当に大切だと思う。

地域の人だけではなくて、市内全体の絶好の遠足の場所だったり観察会だったり、そういう形で利用できたらいい。

私も時々歩くが、最近、第一展望台に行く途中の道路を拡幅するために、保安林である箇所が樹木がバッサリ切られている。拡幅して6,7メートルの道路を作っている。その理由は、今の仮置場からすべて搬出するためにやっていると聞いた。

果たして、公益性があるからといって拡幅したり樹木を伐採したりするのはどうなのか。

保安林を解除したからよいと聞いた。市はそういうことを既にやっている。

この委員会は資源を活かした検討委員会という会であるのに、実際、既に伐採が行われていることには少し腹が立っている。

歴史的な山をどのように活かすかという目的で参加しているが、一方で観光や公益性ということで信夫山を壊されると思えてとても残念。せめて、この委員会で方向性が出るまでは工事をストップしてほしい。

(委員)

信夫山は古来、里山としてふもとの人が使ってきた。里山がどういう山かと言うと、そこで生活基盤がある人たちが利用する山である。だから、今となつては、市民がどう利用しやすいかが里山の使命だと思うので、それらについてある程度整理するのは仕方のないことかと思う。道路は非常に矮小なので、私は、木を切り、道路を広げていただきたい。

(委員)

里山とは住む人たちが利用するというのはそのとおりだが、信夫山の場合は里山であるほかに県外からもお参りに来た山でもある。住んでいる人には里山だが、広域からの関わりを持ってきた山という意味でも信夫山を考えて取り組んでいかなければならない。

御山地区は信夫山の中心だから、御山地区をはずして信夫山のことは考えられない。実際に、太々神楽は元々六供の行事だったが現在は御山地区の保存会の方々が継承している。また、御山小学校で披露しているとも聞いている。

北側の景色も素晴らしい。北側の全体を見られるように考えてみた方がよいのではないか。その展望から福島のすべてが見られたらいいと感じた。

都市公園的な考え方は、私は不適切だと思っている。人工的なものは避けた方がいい。しかし最小限のトイレは必要であるし、休む場所も必要であると思う。

地域の伝統芸能や行事を学校でやることは文部科学省も奨励している。必ず地域の伝統芸能を知っているコーディネーターに頼み、地域との結びつきを強くしなさいという指導が文部科学省から出ている。福島にはあまり伝統芸能はないが、もっともっと知ってもらえればよいと思う。

(委員)

補足だが、私は御山太々神楽保存会会長をしており、御山小学校の生徒に対して毎年お披露目をやっている。子供だけでなく大人も含めて毎年お披露目を行っている。

併せてしめ縄づくりもやっている。御山敬神会と御山太々神楽保存会の合同行事で、かなり長くやっている。自分たちが行っていることは、やっている意味があり、暁まいり、すべての神社や御山の行事など、全部関連がある。敬神会と太々神楽保存会の両方に関わることで、中身が見える、横のつながりもできる、お金の流れもわかる。縦割りにしてし

まうと関連性が薄くなると思う。

御山地区の開発が非常に遅れていて、自治振興協議会で市にも話を上げたが、御山北側の環境保全について物申した。例えば、公園を作ってほしいということも、ただ公園を作るのではなく、桜の木はオーナー制度で植える、保全是御山地区町内会連合会である程度草刈りをするなどの条件をつけお願いしたがダメだった。これは保留になっており、あきらめていない。場所は、民有地もあるが、市有地もある。

昔、御山には戦時中の飛行機工場関連の道路が走っていた。そこを遊歩道にして裏の方も含めて周囲を回るようにしてほしいといろいろな条件をつけてプランニングしたが、結果的にはダメだった。非常に残念である。

ケーブルカー、ゴンドラ、リフトの話が昔は沢山出たが、全部ダメになった。

今、信夫山に新しい道路を作るのは不可能に近いのではないか。市の建設部の話では新しく山を切り開いて道路を拡張することについてはダメだと、しかし獣道があるならできないこともないという非常にわかりにくい話であった。七曲は非常に急なカーブなので、緩やかにするために、3人の方が私有地を譲るので使ってよいと言ったことがあるが、市からは「ノー」という回答がでている。

汚染土壌搬出のための拡幅と保安林の伐採は、3年半かかったがやらざるを得ないことなのだろう。令和3年度末までに中間貯蔵施設に土砂を搬出すると聞いているので、そうすると毎日のように10トンダンプが走る。車が下ることを考え、市としても、住民の皆様のことを考えたのだと思う。私も心配している。当然、市の除染担当からも相談されたしJVも決まったので、これから10トンダンプを下ろすときに具体的に何処を走らせるか、経路も決まる。飯坂インターも通るだろうし、相馬道路も通るだろう。全てのことを把握しているわけではないが、御山地区の会長としてできるだけ皆さんの意見を尊重しながら行政に話している最中である。

(委員)

子供達に何の説明もせずアンケートをしたが、率直な意見で私たちの考えていることと同じだと思った。

信夫山について知らないということに対して恥ずかしい、どうにかしないといけないという意見や、綺麗にしたい、美しい場所にしたいという気持ちが強いことがわかった。第四中学校の生徒による清掃活動したいという意見も上がってきていたので、実際にできたらいいと思う。

先程の話で搬出のトラックが通る場所が気になった。学校周辺を通るのかなど。

(委員)

放射線量についてはシビアに管理されているので、ルート上は逐次計測している。移動中の車がどこに何台走っているかも全部衛星でコントロールしているので、その点は心配

しなくてよいのではないか。しかし、まだルートはわからない。

(委員)

搬入は角に誘導員を配置して安全を確保している。今の道路で十分に安全に運んでいたのだから、搬出のために道路を広げるのは話が違うと思う。搬入と同じようにやれば、安全を確保できるのでないか。

(委員)

話は変わるが、古関裕而記念館は1週間にどれくらい休みなのか。

(事務局)

火曜日が休館である。

(委員)

観光客はいつ来るかわからない。佐賀県のお城にある歴史資料館では、お正月期間以外休みが無い。例えば花見山公園の花見の時期に、福島県立美術館では展覧会等を開催していても平気で月曜日は休む。これから信夫山を考えると、大変なことだとは思いますが、周辺施設との連携を考える必要がある。

(委員長)

昨今の働き方改革の観点から、ご提案のような内容は厳しい時代を迎えているかもしれない。

信夫山に行った時のお手洗いはどうなのか？

(委員)

アンケートの中にも、お手洗いが綺麗ではないと子供達から挙がっていたので、整備してほしい。

(委員長)

東京大学でも女子トイレを綺麗にしないと大学は敬遠される時代になっている。観光客にとってもトイレがきれいなことは大事。

(委員)

烏ヶ崎、第二展望台のトイレは綺麗でないか。民の方で広場を作る計画を進めているが、トイレが1番手続きが面倒でお金が掛かる。

(委員)

市で定期的に清掃もしている。

御神坂広場にもトイレがあればいいと思うが、民有地で建物が建てられないと思う。あの辺りを市の所有物にしてやれば建てられるのではないか。

(委員)

官と民の住み分けについて、現在は民が先行して進んでいる。詳しくは言えないが、御神坂広場にトイレを作る段取りをしている。下水道を何処に流すか等お金がかかるが、民の方と相談しながら進めている。御神坂広場を早急に整備してもらうようにしている。

(委員)

毎日、犬の散歩をしているが、カメラアコーポから入る道路の左側の高いところのトイレが汚い。臭いがする。

(事務局)

駒山広場、太子堂の多目的トイレは H26 年度に整備した。第一、第二展望台にもトイレがある。今お話があったのは大日堂トイレかと思うが、現在汲み取り式になっている。汲み取り式トイレは、他にも天狗の森広場と、第一展望台より少し上に上がったところにある青葉山トイレがある。アンケートの結果は、それらの汲み取り式のトイレを指しているのではないかと思う。

また、今年度の補正予算で、今年度中に第二展望台のトイレを和式から洋式に変えたいと検討している。

なお、信夫山公園ではないが、信夫山児童遊園のトイレを H26 年度にリニューアルして、新しいトイレになっている

どうしても外にあるトイレなので、一般家庭のようなトイレのように衛生的かといわれると難しいが、業務委託し、1日1回は清掃、巡回をしいている状況である。

(委員長)

やはり今どきのお子さんは汲み取り式には抵抗があるのかもしれない。

(委員)

前回の委員会からいろいろ勉強させていただき、信夫山について信仰、文化、歴史、自然環境が大変重要だということがよくわかった。

民間で開発の動きがあるとのことだが、やはり信夫山になるべく多くの市民の方に来ていただく環境づくりが大事だと思う。そのためには、確かに保全というのもわかるが、民間の動きとの連携や、若い人たちが来られるようにするというのをやっていく必要がある

るのではないかと思う。

例えば、民家園にある広瀬座は国の重要文化財だが、今はそういうものも保全するだけでなく、使って実際にそこに来てもらうことが大事だと、昔と変わってきている。

信夫山が本当に大事であれば、1人でも多くの市民の方に来てもらうための仕掛けづくりが必要で、そのためには整備も必要になってくる。保全するものと活用するものの、両方のバランスをとらないといけない。今後、民間の動きなどと整合性を取りながらうまく取り入れていくことも大事だと思う。

(委員)

いい見本が花見山で、何故全国からあれほどの人が来るのかを考えてみるといい。花見山には花以外に何も無いにも関わらず、来てよかったと満足できる何かがある。それは一体何なのか。信夫山では何がその満足感に代わるものになるのかを突き詰めて考えなければならぬ。何かを作ったから人が来るというのは間違いだと思う。

(委員長)

人が多く来ると、自然、空気、水が汚れるおそれもある。山を守りながら、信夫山や福島市のことが大好きなファンをどれだけ増やせるかが今後の大きな課題なのではないかと思う。

(委員)

2月10日に、信夫三山暁参りという、信夫山で400年くらい続く大きなイベントがある。

1人でも多くの方に暁参りにきてもらうにはどうしたらよいか、大きなポイントである。いくら立派なわらじを作っても、人が来ないと意味がない。JRや福島交通など関係する所にポスターを貼っても、地元の間が興味を持たないと毎年同じことで終わってしまう。成功するようにぜひよろしく願います。

④今後のスケジュール

意見なし